

吉田 今、読み書き、特に漢字の話だったわけですが、教育の問題としてはただ読み書きだけではなくて、もう少し精神的な面とか、理想とか、さういふ問題がいろいろあると思ふのですけれども、さういふものについて先生はどういふ風に考へてゐらっしゃいますか。

石井 かつて藤堂さんと「読書新聞」で論争したことがあるんです。それは漢字の問題なんですが、漢字をどのやうな態度で学ぶかといふことなんです。藤堂さんは、「いろいろ学習する手段としての漢字といふものを考へるか、それとも現在の段階におけるコミュニケーションを中心として考へるか、あるひは過去の文化遺産を受け継ぐ手段としてもものを考へるか、さういふことによって漢字に対する考へも変はって来る」といふ議論をなさってゐました。私は、「これら三つのものは同じなんだ、これを別々のものとして考へるのはをかしい。これからのことを考へるには、まづ一番目に過去のことを十分に研究して、過去のことをそのまま受け継いで、今までの教育といふものを十分に知ることが、次の段階の足がかりになるんだ。過去のことを十分に知らないで、ただそこで現在あるものから、どういふ方向にでもいい、進めていかうと考へると、これではほんた

うの意味の進歩といふことはあり得ないと思ふ」と答へたわけです。

私はさういふ意味で、できるだけ過去のを短時間に吸収することが大切で、その能力の中心はやはり漢字力だと思ふのです。正しく漢字といふものを身につけて、深く漢字の持つてゐる意味を身につけてゐれば、短時間で過去の文化遺産を吸収することが出来るわけです。さうした上で、自然と自分の独創的な考へといふものも出て来るものと思ひます。

現在における我々人間の行動といふものは、出来るだけ過去の文化遺産といふものを十分に消化しきったものほど、本当にこれからの日本の将来を力強く作って行けるんじゃないか、さういふやうに思ひます。

吉田 その考へ方といふのは解るやうな気もするんですが、他面例へば自然科学を学ぶといふ風なことも、非常に必要ですね。自然科学を学ぶ場合に、漢字を使って学ぶのか、これはむしろヨーロッパで出来上がってきた文化ですね。中国にないとは申しませんが、それでも、現在のところやってゐるのはさういふ文化なのですが、それを学ぶ場合に漢字を使ってゐることが、むしろかへって理解を

妨げるんぢゃないかといふ問題もあるわけです。その場合は現実さまたに使ってゐるんだからそれを知っておかなければならないといふ発想で先生はお考へになつてゐるわけですか.....。

石井 少なくとも初歩の段階においては、漢字、かな仮名まじり文といふ日本文になつた書物、さういふ手引書といふものをまづ十分に読みこなせなかつたならば、これはやはり進めないと思ふのです。それは欧米の原典を直接に読むといふこと、それはもちろん勿論大切な事ですけれども、そこへ行く手前に日本文で書かれたもの、さう言つたものは恐らく私は一生必要ぢゃないかと思ふのです。